



郷土の秘話に夢中

村教委主催の趣味教養講座「郷土の歴史を探る会」が8月31日、村自然休養村管理センターで開かれ、約40人が参加し、村の歴史や文化に触れ、ふるさとを再発見しました。

同講座ではふれあい交流センターの金子功館長

(74)が「昔、普代村を通った人」と題して講演。金子さんは普代村史などに取り上げられていない村を訪れた人物を年代順に紹介。(写真)「源義経が宮古から海路で普代の力持地区に来たという説もあり、力持地区には弁慶が力比べをした弁慶岩伝説があります」などと興味深いエピソードを披露しました。



一本釣りスタート

豪快な引きが魅力のサケの一本釣り。今年は去年より8日早い、9月17日から堀内漁港内のまついそ公園で始まり、同公園内の一角を網で仕切った釣り会場に約200匹のサケを放流。朝早くからシーズンを待ちわびた一本釣りファンが県内外から12人ほど訪れ、サケならでわの豪快な引きを楽しんでいました。

初日に訪れた、盛岡市の羽鳥正志さん(31)と真之助君(6)親子は、「引きが強かった、うれしかった」と体長50センチほどの雌サケを見事釣り上げていました。(写真)

地域ぐるみで訓練

村総合防災訓練が9月4日、太田名部地区で行われ、消防団員100人、婦人消防協力隊32人、地区民約200人が参加して行われました。

訓練は午前8時、普代沖を震源とする地震で震度6強を観測。津波警報が発令、5カ所で住宅火災が発生したことを想定し行われました。各分団は素早く住宅火災の消火に当たり、水門、ひ門を閉鎖。地区の皆さんは津波を警戒し、避難しました。また、初期消火訓練(写真)や応急手当訓練、同漁港内では海上保安部ヘリでの人命救助訓練も行われました。

